

8/26 赤旗

戦争法案廃案へ

「平和を守る思いとたたかい」

戦争体制一色の暗い未来ではなく、幸せに生きられる明るい未来を子どもたちに手渡したい。

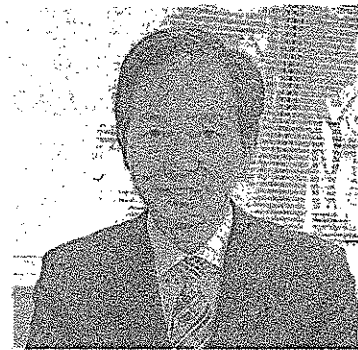
「教え子を再び戦場に送らない」をスローガンに教職員はいま、平和への願いを職場で広げています。全日本教職員組合（全教）の蟹澤（かにざわ）昭三委員長に決意を聞きました。（堀由紀子）

安倍政権が「戦争法 科書検定制度を改悪し、案を打ち出したこと」「つくる会」系教科書の採択に靖国派が血道をあつて、道徳の教科化まですすめてきました。その生みの柱は「戦争する国づくり」と「世界で一番企業が活動しやすい国づくり」を支える人材育成です。

明るい未来こそ

安倍政権はこの間、教

全教委員長
蟹澤昭三さん
に聞く



再び戦場には送らない

にものがいえないような暗い世の中で、子どもたちを生きてほしいはありませぬ。

教職員と総対話

いま、「全国教職員投票」とりくんでいまして。「戦争する国」ではなく憲法9条をいかし

間として成長してほしい、自信をもって生きてほしい、という願いをもって、私たち教職員は日々、子どもたちと向き合っています。子どもを待ち受ける未来は明るいものでなければ困ります。

教職員組合運動として、教育の中身を磨き上げていくこと、社会のあり方について声を上げていくことは、切っても切り離せない関係にあります。国は戦争をするために、国民生活全体を規制するでしょう。自由

『平和を広げる国』を私

は子どもたちに手渡したいに「そう思う」「いいね」「だったら〇〇をつけてもらうものです。

7月末までに約5万人から、「〇〇の意思表示」とともに、「私のひとこと」意思表示を求める運動であり、教職員総対話運動

「教え子を再び戦場に送らない」というスローガンは、心をえぐられるような体験から生み出されたものです。われわれは決して負けない。「戦争法案」は必ず廃案になります。



「教え子を再び戦場に送らない」の横断幕をもってパレードする蟹澤さん（中央）